

JANPU FDミニマムシリーズ

教学マネジメントに対する理解を深める

社会の複雑で多様なニーズに応えるためには、大学の内部質保証の仕組みを活用し、教学マネジメントを推進することが求められます。その実現には、学内で収集される各種データの有効活用が鍵を握ります。学生が主体的に学修に取り組める環境を整備し、「学修者本位」の観点を基軸に、学生の成長を支援する教育活動に取り組んでいきましょう。



一般社団法人 日本看護系大学協議会
2025年度高等教育行政対策委員会 作成

学修者本位の教育への転換

- 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」では、高等教育が目指すべき姿として、学修者本位の教育への転換が必要であることが示されています。

「何を教えたか」 → 「何を学び、身に付けることができたのか」

- 大学教育の改善に向けた取組状況について、積極的に取り組んでいる大学と消極的な大学との間に差が見られることが指摘されています。
- 今後の検討課題として、教学マネジメントに係る指針の策定、学修成果の可視化と情報公表の在り方に関する検討が挙げられています。

教学マネジメントとは

- 教学マネジメントは「**大学がその教育目的を達成するために行う管理運営**」であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みとされています。
- 教学マネジメントの確立にあたっては、以下のことが必要であるとされ、PDCAサイクルが大学全体、学位プログラム、個々の授業科目のそれぞれの単位で有効に機能していることが求められています。
 - **三つの方針**である「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー:DP）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー:CP）」、「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー:AP）」に基づく体系的で組織的な大学教育を展開し、その成果を**学位プログラム**（学位を与える課程）共通の考え方や尺度に則って点検・評価を行い、改善に取り組むこと
 - 学生の**学修成果**に関する情報や大学全体の**教育成果**に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用すること

大学教育の質の保証

- 大学教育の質を保証するためには、大学自らが率先して取り組むことが重要になります。
- 教学マネジメントの確立にあたっては、教育活動に用いることができる学内の資源及び学生の資源は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のために大学における時間の構造を「供給者目線」から「学修者目線」へと転換するという視点が重視されています。

教職員、校地や施設設備等



学修に使える時間等



教学マネジメント指針

- 教学マネジメント指針は、三つの方針に基づき、学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営、すなわち教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示すものとして作成されています。

- 教学マネジメント指針の対象範囲

大学の
学士課程

短期大学
の課程

大学院の
修士課程・博士課程

専門職大学院・
大学・短期大学

大学・短期大学の
専門職学部・専門職学科

高等専門
学校

- 正課の教育（大学が主体的に関与し、責任を有するような正課外活動も含む）
大学が実施する海外派遣プログラムなど
- 教学マネジメント指針の利用者
 - 個々の学位プログラムの構築・運営に責任を負う者（学長・副学長や学部長など）
 - 実際に教育やその支援に携わる教職員
 - 大学に関わる関係者（学生や学費負担者、入学希望者、国際社会や地域社会、産業界等教育と密接な関係にある存在、社会一般を含む）

「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- 各大学の強みや特色が反映された**三つの方針**は、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点となります。
- 学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は、学生の**学修目標**及び**卒業生に最低限備わっている能力**の保証として機能するよう、具体的かつ明確に設定することが求められています。



卒業生が「何を学び、身に付けることができるのか」

- 大学教育の成果を学位プログラム共通の考え方やルーブリック等の尺度（**アセスメントプラン**）に則って点検・評価する必要があります。

授業科目・教育課程の編成・実施

- 「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に定められた学修目標を達成する観点からは、明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的かつ組織的な教育課程を編成する必要があります。
- 教育課程の編成に当たっては、授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要になります。密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、学生が同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められます。

カリキュラムマップ

カリキュラムツリー

- シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図る上で極めて重要な存在で、「何を学び、身に付けることができるのか」（到達目標）を明確に定め、適切な成績評価を実施するための基点となるものとして作成することが求められています。

「入学者受け入れの方針」に基づく大学入学者選抜の実施

- 各大学は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に定められた学修目標の幅広さと水準を十分踏まえつつ、入学段階で備えておくべき資質・能力等を「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」において具体的に示すことが求められています。
- 入学者選抜が求める学生を適切に見いだすものとなっていたか**点検・評価**を実施し、その結果を踏まえて「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」の見直しを行う必要があります。

入学後の追跡調査



学修成果・教育成果の把握・可視化

- 一人一人の学生が自らの学修成果として身に付けた資質・能力を自覚し、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に定められた学修目標の達成状況を可視化された**エビデンス**とともに自ら説明できるよう、複数の情報を組み合わせて多元的に行う必要があります。また、大学が、学位プログラムを通じて「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に定める資質・能力を備えた学生を育成できていること（教育成果）も説明できることが求められます。



- 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として、**成績評価の信頼性**を確保することが求められます。

教学マネジメントを支える基盤

- 「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義した上で、役職・経験に応じた適切かつ最適な**FD**（ファカルティ・ディベロップメント）・**SD**（スタッフ・ディベロップメント）を組織的かつ体系的に実施していく必要があります。加えて、FD・SDは、学修成果・教育成果の把握・可視化により得られた情報の共有、課題の分析、改善方策の立案等、実際に教育を改善する活動として位置づけ、実施する必要があります。
- 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学 **I R**（インスティテューショナル・リサーチ）の学内の理解や、制度整備・人材育成を促進することが求められています。

立地等の環境や学問分野等が共通する大学・学位プログラム間で各種の情報を比較・分析するベンチマークを積極的に推進することも期待されています。

情報公表

- 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を幅広く社会に対して自発的・積極的に公表していくことが求められています。
- 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報の公表を積極的に進める必要があります。

以下の問いかけについて、
これまでこのように取り組んできた、これからこうしたらいいのでは等、
自由に仲間と討議してみてください。

- 教学マネジメントにおいて、「学修者本位」の教育の実現のために求められているものは何でしょうか？
- あなたの大学ではどのような体制で教学マネジメントに取り組んでいますか？
- 教学マネジメントに係る個々の取組が、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで有効に機能する必要があります。あなたの所属組織では、どのような教学マネジメントの課題がありますか？
- 教学マネジメントの課題について、どのような解決策が考えられるでしょうか？